

「みんな生きている」

日々、幼稚園の働きを続けている中で、ふと考えることがあります。それは、とても酷い考えなのですが、あえて口に出して言ってみますと、ここに集まっている大切な子ども達の中に、将来、罪を犯す子どもはいるのだろうか、と。ごめんなさい、かなり不穏当な発言だったことは認めます。ただ、弁明をさせてもらいますと、敦賀教会幼稚園の子ども達の中に、将来、罪を犯すかも知れない可能性を感じている、というわけではなくて、今は大人になっていてニュースを騒がす何らかの犯人たちは、どんな幼稚園、保育園、あるいは認定こども園時代を過ごしていたのかな、と思うわけです。そういう罪を犯す人たちは、幼少期から、そういう片鱗があったのか、どうか。それとも、幼少期以降に、そういう反社会的な性質を身に着けるようになったのか。どうなのでしょうね。確かに、世界には沢山の悪人がいます。極悪人と呼んでも差し支えない人もいます。でも、悪人や極悪人と呼ばれる人は、いつからそう呼ばれて差し支えなくなったのか。小学生、中学生、高校生、大人になってからなのか。一体、その人生の中で、何が変質してしまったのか。・・・とか、そういう意味もないことを時々考えてしまう。・・・でも、そういうことを考える想像力は持っていた方が良くと思っています。それは、犯した罪や、被害者感情を軽んじるためではなくて、その犯罪人が、生まれながらの犯罪人なのか、何かが、誰かが、その人を犯罪人にしたのか、という建設的な分析をするために必要な想像力だと、個人的には考えています。もし仮に、幼少期ですでに犯罪人の可能性が見いだせれば、それが社会にとっては一番良いのかも知れません。まさに未然に犯罪を防ぐという点で最も有利であると言えます。でも、その場合、敦賀教会幼稚園に在籍する子ども達にも、疑いの目を向けることになるので、幼児教育に関わる身としては非常に悲しいお話です。

だから、話は戻りますが、人はいつから犯罪人となる可能性を持ち得るのか、ということは難しい判断なのだろうと考えるわけです。

ただ、少なくとも、私たちが神様に祈る時には、今日の聖書箇所の一節を忘れないでいたいと思います。「神は、このような人をも受け入れられた」のだと。法治国家である日本の警察署や裁判の法廷、あるいは犯罪被害者の面前で、この御言葉をいたずらに語る必要はありません。そういう場には、そういう場に相応しい言葉があります。しかし、それと同じように、教会にも教会の、祈り場には祈り場に相応しい言葉があって、どんな罪人を前にしても「神は、このような人をも受け入れられた」と言うことには、人の感情や倫理を超えた大きな意義があると私は思っています。

今回の聖書箇所の本来の目的は、食物規定に関するパウロの考えを述べることです。キリスト教の前身であるユダヤ教には、食物規程と呼ばれるお約束があります。食べて良いものと、食べてはいけないものが、神様によって定められているという教えです。キリスト教には、そういう教えはないので、何を食べても叱られることはありません。まさに、パウロは、そのキリスト教の視点から、キリスト教に入信したにも関わらず、まだ食物規程に縛られている人たちのことを「信仰の弱い人」と表現しています。また一方で、逆の視点についても触れています。つまり、食物規程に従って食べないという生き方をしている人は、食物規程に従わず食べるという生き方をしている人を裁いてはならない、と。戒律・規則に忠実な人ほど、そこから離れた生き方に対して、厳しい目を向け勝ちです。守るべきお約束をちゃんと守る人ほど、そのお約束に従わない人を嫌悪する傾向があります。パウロは、そうした両者互いの思想信条に由来する、批判や断罪に対して、「ちょっと待ってよ」と言うわけです。お互いの考え方も分かるけど、でも「神はこのような人をも受け入れられたのだから」と。安易な正義の応酬をけん制して、理解し合い、受け入れ合うために必要な調

停の場を作ろうとしているのです。

信仰の強い弱いが、法律に対する従順さにも繋がっていた 2000 年前当時と、信仰の有無に関わらず法治国家として秩序と安全を守っている現代日本とを単純に並べて、正義や寛容について語るのは、乱暴かも知れません。しかし、今回、お伝えしたいと思った一番大事なところは、幼児教育の現場からの想いでもあるのですが、誰であれ「みんな生きている」という揺るぎない事実です。

「生きている」とは、つまり、神様から命を与えられて、この世に生まれて来たということです。ね。礼拝でも何度か紹介しましたが、インドのタゴールという詩人が残した、次の詩を私はとても大切に憶えています。「すべての子どもは神がまだ人間に絶望していないというメッセージを携えて生まれてくる」。どんなに悪人や極悪人がいても、神様はまだ人間に絶望はしていない。だから、新しい命が生まれ、幼稚園に通ったり、教会学校に来てくれたり。そして、いずれ大人になり、この社会を担っていくことになる。誰であれ「みんな生きている」。神様の大切なメッセージを携えながら、ですね。

まずは、その信仰理解に基づいて、良い人にも、悪い人にも、等しく思いを傾けてみる。規則に忠実な人にも、規則を軽んじる人にも興味を持ってみる。誰であれ「神は、このような人をも受け入れられた」だから「生きている」と思ってみる。そこから始まる、平和への取り組みもきっとあると思います。

今、私が語っていることが、底抜けに楽観的な性善説であることは自覚しています。「それじゃ、犯罪抑止はできないよ」と言われると、確かにそうでしょう。性悪説に立った、厳しい制度設計も重要だと思います。ただ、何事もバランスが大事で。この世界が、急速に不寛容と厳格な正義の道へと進んでいくなら、私たちは寛容と赦しを語っていたいと思います。逆に、もしもこの世界が、怠慢と不正義に満ちてくるなら、私たちは神様の裁きと正しい命の使い方を説いていくべきでしょ

う。キリスト教が背負う「見張りの役」とは、そういうことだと私は思っています。

あまり政治の話に踏み込みはしませんが、なんとなく人々の危機感を煽りながら、ある一定の正義を主張する傾向が強まりつつあるように感じます。人と人の間に、線引きをして、こちら側とあちら側に分けて、こちら側の安心安全を確保することが至上命題として語られる雰囲気があります。お互いに命を与えられて、巡り合うことのできた幸いよりも、巡り合うことに伴う危うさや恐れに目を向けるような、そんな印象も持ちます。それは、罪を犯す人が存在する以上、致し方ない処世術、生き残り戦略ではあるのかも知れません。大切な人を守るために、必要な正義の行使とも言えます。

けれど、それでも今日、皆さんと分かち合いたいのは、それでも神様に命与えられて「みんな生きている」ということ。神様は、どんな人も受け入れて今日の命を守ってくださっているということ。そして、その信仰理解から始まる、平和の道もあるはずだということです。甘ったるい理想論と言われても、現実を知らないと言われても、誰かが、その甘さと理想を持たなければ、この世界はどんどん、誰にとっても生きづらくなっていくでしょう。批判、軽蔑、裁きを全て神様に委ねることで、私たちは、全ての命ある者を愛するという選択を続けて参りたいと願うものであります。お祈りを致します。

神様。今日も私たちをこの礼拝堂に招いてくださり、感謝致します。あなたは、全ての人に命を与え、その人生を導き、今日も、それぞれの場所で、皆が安らげるようにと、安息日を備えてくださいました。あなたは、善人の上にも、悪人の上にも等しく太陽を昇らせ、また雨を降らせる方があります。その分け隔てない愛と慈しみの中を、私たちは生かされ、祝福を与えられえています。そのことに感謝しつつ、私たちもまた、あなたに倣って、この世界が分断されることを拒み、共に生き、共に平和を創り出す者として歩むことができますように。次の世代の子ども達が、憎み争う

ことなく、他者を理解し、他者から理解されることが当たり前の世界を生きることができますように。どうか導き、御守りください。

このお祈りを、平和の主であるイエス様の御名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。

10月召天者を憶える祈り 聖書：ヨハネによる福音書 14章 1～4節

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」

小山武雄（こやま たけお）兄 （2004年10月3日召天）

河邊志げ子（かわべ しげこ）姉 （2008年10月4日召天）

山田百合子（やまだ ゆりこ）姉 （2015年10月13日召天）

倉谷美千代（くらたに みちよ）姉 （2023年10月21日召天）

ニッ矢セイ（ふたつや せい）姉 （1999年10月23日召天）

大澤徳則（おおさわ とくのり）兄 （1990年10月29日召天）

神様。私たちは今、10 月にあなたへの御下へと召された兄弟姉妹を憶えて祈りを捧げています。

尊敬すべき信仰の先達のことを思う時、私たちの心はこの世を超えて、あなたの住まう天上にまで及びます。御国の幸いのただ中におられる方々は、必ずや主と共に永久の安らぎに身を委ねていると信じます。生前に各々成し遂げられた働きに対する十分な報いが天にあることを信じます。来る日には、私たちもまた天へと帰っていきます。その時、再び相見える昔懐かしい顔を前にして、恥じることなくこの地上での働きをお伝えすることができるように、どうか私たちの生活と信仰をあなたが導いてください。天には豊かな平安がありますように、そして、地にはあなたによる力強い導きと、くすしき恵みをお与えください。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。